

平成 30 年度 第 38 回 JANS 若手研究推進委員会交流集会のご報告

平成 30 年 12 月 15-16 日に松山市で開催された第 38 回日本看護科学学会学術集会で、若手研究推進委員会主催の第 6 回交流集会を行いました。今回のテーマは、若手研究者への研修ニーズ調査で多くの希望が寄せられていた、「所属や分野を超えたネットワークの作り方」に焦点を当てました。

【交流集会テーマ】

若手研究者のシーズを育てるネットワークづくり ～Evidence-Based Nursing のための学際的研究の進め方～

今回は話題提供者を若手研究推進委員会委員と本委員会エリア・コーディネーターとし、会場からもご意見をいただいて、学際的研究を促進するための効果的なネットワークづくりについて意見交換を行いました。

水田明子委員からは、学際的な研究成果に辿り着く経緯として、研究においてもソーシャルキャピタルの信頼、規範を意識した関係性を築くことでネットワークが広がり、その恩恵として有用な情報、共同研究者、情緒的サポートが得られたことが紹介されました。続いて、坂梨左織委員からは、平成 29 年度に始まった「九州エリア第 1 回検討会」の発足の経緯と、検討会における若手研究者からの提言として「時間の有効管理と主体的な行動」「研究力を高めるためのプロジェクトや組織への帰属」「所属を超えたゆるやかな繋がり」が報告されました。九州地区エリア・コーディネーターの村井孝子氏からは、エリア会開催の利点として他大学の若手研究者との交流により、「研究活動継続のモチベーションの継続」「思いの共有と刺激」「研究や教育活動の情報共有」ができたことが伝えられました。指定発言者の坂井志織委員からは、多分野で構成される学会や研究会に数年単位で継続参加していたことがネットワークの土台づくりとなり、学際的な研究プロジェクトの立ち上げにつながった事例が紹介されました。

会場からは、「大学院で研究を学んでもその後に研究を続ける土壌がない」という意見が出されました。基礎的な研究方法を学んだ大学院修了生が、臨床の場でリサーチクエッションを見出し課題解決に取り組むことは、看護の発展に大きな貢献が期待されます。臨床と大学が協力して研究の場を創造しなければならないことが認識できました。また、「組織を超えた自由で活発な学びの場の必要性」についても意見が出されました。西村委員長より、全国の会員皆様と共に若手研究者の研究を推進する土壌を築くために、若手の会としてエリア会の全国展開を促進する必要性を強く感じたことが伝えられました。



参加者アンケートからのコメント

- ・どのようにつながりを持ち、どのような研究をされていたか知ることができ、参考になりました。
- ・ネットワーク作りの第一歩を進めていないことが課題なので、行動する勇気を持って活動していきたい。
- ・九州の取り組みの発表が参考になりました。自分の地域でも立ち上がったなら参加したい。